

科目名称	地域・在宅看護方法論Ⅱ（訪問看護技術）	学年学期	単位数	時間数
		2 学年 後期	1	30
担当教員	大北米香	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有（看護師） <input type="checkbox"/> 無	

【1】授業概要

地域で暮らす対象に応じた訪問看護を展開するために、各看護学領域で学んだ知識・基礎看護技術を統合し、対象の日常生活をアセスメントし援助する日常生活援助技術及び療養生活に必要な医療ケアについて学ぶ。

【2】学習目標

1. 地域・在宅看護の基本となる、コミュニケーション技術・面接技術について説明できる。
2. 地域・在宅での暮らしを支える看護の視点で日常生活をアセスメントし援助する要点を説明できる。
3. 地域・在宅での暮らしを支える看護の視点で日常生活援助技術を習得できる。
4. 地域・在宅での療養生活に必要な、各種の医療ケアの要点を説明できる。
5. 地域・在宅看護論の授業内容を振り返り、自己の在宅看護観と在宅看護論実習に臨む課題を持つことができる。

【3】第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心をもち、主体的に学び続けることができる。

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	地域における暮らしを支えるコミュニケーション	講義
2	暮らしを支える地域・在宅看護技術（日常生活援助技術）(1)	講義
3	暮らしを支える地域・在宅看護技術（日常生活援助技術）(2)	講義
4	暮らしを支える地域・在宅看護技術（日常生活援助技術）(3)	講義
5	暮らしを支える地域・在宅看護技術（日常生活援助技術）(4)	講義
6	暮らしを支える地域・在宅看護技術（日常生活援助技術）(5)	講義
7	暮らしを支える地域・在宅看護技術（日常生活援助技術）(6)	演習
8	暮らしを支える地域・在宅看護技術（日常生活援助技術）(7)	演習
9	在宅療養を支える地域・在宅看護技術(医療ケア)(1)	講義
10	在宅療養を支える地域・在宅看護技術(医療ケア)(2)	講義
11	在宅療養を支える地域・在宅看護技術(医療ケア)(3)	講義
12	在宅療養を支える地域・在宅看護技術(医療ケア)(4) 訪問時のマナー	講義・演習
13	在宅療養を支える地域・在宅看護技術(医療ケア)(5)	講義・演習
14	在宅療養を支える地域・在宅看護技術(医療ケア)(6)	講義・演習
15	筆記試験・まとめ	

【5】評価方法

筆記試験 75%，演習への取り組み状況 10%，提出課題 15%で総合的に評価する。

【6】教科書

河原加代子：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践（第6版）医学書院 2026（電子版）

【7】参考書

臺有桂 他編：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第7版）メディカ出版 2025

臺有桂 他編：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第2版）メディカ出版 2025

池西静江 編：看護学生スタディガイド 2026（第12版）照林社 2025

【8】 受講生へのメッセージ

事例や体験を通して地域・在宅看護における日常生活援助技術や医療管理を要する人の看護について学びます。